

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 4 回高松市総合計画審議会
開 催 日 時	令和5年10月16日（月）18時30分～19時45分
開 催 場 所	高松市役所防災合同庁舎 3 階 3 0 1 会議室
議 題	（1）次期高松市総合計画基本構想案のパブリックコメントの実施結果について （2）次期高松市総合計画基本構想案に関する答申について （3）その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員 （24名）	赤崎委員、伊藤委員、大美委員、笠井委員、喜田委員、木村委員、糸井委員、国東委員、久保委員、国分委員、佐野委員、高橋委員、田口委員、佃委員、角田委員、豊田委員、中村委員、中橋委員、野田委員、日笠委員、古川委員、星野委員、真鍋委員、森田委員、藤倉オブザーバー
傍 聴 者	5 人 （定員 1 0 人）
担当課及び 連 絡 先	政策課 839-2135

### 会議の経過及び結果

#### **（1）次期高松市総合計画基本構想案のパブリックコメントの実施結果について**

意見なし

#### **（2）次期高松市総合計画基本構想案に関する答申について**

（委員）

答申案まちづくりの目標5のうち、2について、「交通事業者だけでなく地域住民を始め地域の多様な関係者とも連携を図りながら、需要に対して最適な公共交通サービスを提供し、地域の実情を踏まえた効率的で持続性の高い公共交通網を構築」とあるが、具体的にどのようなことを目指しているのか。

(事務局)

鉄道やバスの利用者の減少、利用者が少ない郊外部路線のサービスの低下、運転手不足など、本市の公共交通の課題は、解消されていない。

これらの課題解決に向け、今後も交通事業者だけでなく、地域住民等と連携を図りながら、公共交通空白地等におけるコミュニティバスやタクシーを活用した新しい移動手段の導入など、持続性の高い公共交通網を構築してまいりたい。

(委員)

交通事業者に限らず、様々な業種の事業者は、「高松市」に関わって、あらゆることに関して良い方向を目指したいと思っているので、事業者の意見も聴き、巻き込んで、「一緒になってやっていこう。」という姿勢で何事も検討してもらいたい。

「こう決まったからこうしてください。」ではなく、事前に意見交換を行い、相互にWin-Winになるような関係性を構築してもらいたい。

(事務局)

これまでも、事業者と連携してきたが、今後、一層、人口減少が進行する中、様々な地域課題解決に向けて、早い段階から、事業者の意見を聴き、官民連携を進めてまいりたい。

(会長)

今後の人口減少社会の中において、これまでどおりの形で継続できないことが出てくる。

それらを含め、行政や市民がどのように努力していくのか、総合計画を策定する中でしっかりと考えていただきたい。

(委員)

答申案まちづくりの目標5のうち、3について、国では、2020年10月にカーボンニュートラルを宣言し、その実現に向けた取組を全国展開しているが、高松市としても、課題や方向性、具体的にどのようなことに取り組もうとしているのか示す必要がある。

(環境局長)

本市では、2020年12月にゼロカーボンシティを宣言したが、行政だけで達成することが難しい中で、事業者や市民を巻き込みながら、再生可能エネルギーの利用促進や環境配慮行動に関する意識啓発に取り組んでいくなど、脱炭素社会の実現に向けた方向性を基本構想に記述した。

また、各種取組を進める具体的な事業は、実施計画の中で取りまとめ、成果指標も設定してまいりたい。

(委員)

今後、ごみ問題は深刻化していくため、ごみ関連の取組についても、新しい仕組みづくりが課題になる。

また、人口減少社会を迎える中、人口増加は見込めないとしても、人口が減少した際、何年間でどのような人口構造を目指していくのか、また、それを踏まえて必要となる政策・施策をどのように進めていくのか検討していかなければならない。

(事務局)

人口減少は、現状の大きな社会課題として捉えており、次期総合計画の序論でも記述した。

人口減少対策に取り組みながら、官民連携、市民の皆様とも協働によるまちづくりを進めていくということで、目指すべき都市像を「人がつどい 未来に躍動する」とした。

人口動態は短期間では好転しないが、人口が減少しても、周辺市町との連携や効率的な行財政運営などに取り組み、持続可能なまちづくりを進めてまいりたい。

(会長)

基本的には、総合計画は、人口動態を踏まえた計画であり、序論にも記述されている。

(委員)

人口減少は、様々な分野に影響するので、数字として示す分野があつて良いと考える。

(委員)

障がい者、LGBTQ、独居生活者等の社会的弱者に対する十分な配慮について、答申の中で具体的な文言として入れるべきではないか。

特に、高齢者に限らず、今後は独居の人が増加する見込みなので、答申に追記してはどうか。

(委員)

答申案まちづくりの目標2のうち3において、「年齢や性別、国籍、障がいの有無に関わらず」としており、全ての属性を包含する形で記述している。

(会長)

独居高齢者等の特定のキーワードだけを具体的に記載すると、全ての目標に全てのキーワードを入れなければならないため、包括的な記述が望ましいのではないか。

また、具体的なキーワードを入れてしまうと、逆にそこだけが目立ってしまうため、あえて入れずにまとめている。

(事務局)

全てのキーワードを網羅的に記述できないので、包括的な記述にしている。

(委員)

答申案まちづくりの目標1のうち1について、「全ての子育て家庭が」という記述があるが、子どもの数が減少する中で、妊娠以降の状態の家庭だけを支援するのではなく、子どもを望んでいるがまだいない家庭、不妊治療や養子縁組をする家庭が置き去りにされているように見える。

子どもを持つことを望んでいる人まで包括的に表現した記述が望ましい。

(事務局)

「妊娠・出産・子育てできる環境づくり」の中で、子どもを望む方への支援についても記述している。

(委員)

「望む人全てが」や「子育てしたい人全てが」など、もう少し違う主語がないのか。

「全ての子育て家庭が」では、どうしても子どもがいる家庭に限定されているように見えるため、工夫が必要ではないか。

(市民政策局長)

御意見を踏まえ、「全ての子育て家庭が」という記述については、再度、検討させていただきたい。

(オブザーバー)

香川県では、地域社会経済や県民生活、自治体経営に大きな影響を及ぼす新たな事象が発生したことなどに伴い、総合計画の見直しを行ったところである。

香川県と高松市は広域行政体と基礎自治体で、役割は異なるが、住民から求められるものは、香川県でも高松市でもそれほど変わらないと考えている。

そのような中で、今回の高松市総合計画基本構想案を拝見すると、非常によくまとまっているという印象を受けた。

特に、人口減少への対策も、それに伴って生じる課題への対応も、香川県の方向性と概ね一致しており、非常に心強い。

一方で、香川県の総合計画の見直しの際にも懇談会の委員から指摘を受けたが、行政の分野は幅広く、バランスも考慮しなければならないが、政策面で特色を出していくことも必要になってくる。

いかに住民の皆様幸せになってもらうかを考えた上で、各種取組を推進し、香川県と高松市が連携できる取組については、積極的に連携し、高松市が基礎自治体としての特性をいかして進めていくことが望ましい取組は、どんどん進めていただきたい。

(会長)

様々な御意見をいただいたが、基本構想の中に込められる言葉には限界がある。

事務局においては、政策・施策を展開していく中では、委員の想いを組んで、取り組んでいただきたい。

### (3) その他

・基本構想の成果指標（案）について

(委員)

シビックプライドは、「郷土愛」や「愛着」と言われるが、アンケート等において「高松に愛着がありますか？」と聞かれると、何をもって「愛着」とするのかが分からないので、質問方法等を検討していただきたい。

また、答申案の総括には「より多くの市民に知ってもらうことが大切」ということが書かれているが、来年度からの8年間の中で、小中学生にどのように知ってもらうかが非常に重要である。

(事務局)

シビックプライドに関しては、現行の総合計画における市民満足度調査の中で、愛着度を測っているが、御指摘のとおり、何をもって愛着とするかは、一人一人異なる。

来年度以降の市民満足度調査の手法等について検討中であるため、その中で設問の在り方も検討してまいりたい。

また、特に小中学生が、高松市のまちづくりを知ってもらうため、新たな取組についても検討し、実施計画に盛り込んでまいりたい。

(会長)

シビックプライドは、そもそも愛着ではなく、誇りである。

(委員)

「高松市はいいところだと市外の人に誇れますか？」と聞かれると分かりやすいが、「愛着がありますか？」と言われると違和感がある。

(会長)

高松市を市民が誇れるまちにすることは大事であり、シビックプライドはそういうものである。

(委員)

シビックプライドという表現は気になっている。

シビックプライドは、学術論文でも研究が進んでいて、一般的に言われる「郷土愛」とは少し違うという意見が主流になってきており、「市民がまちに貢献したい」や「積極的・主体的に行動しよう」と考えることであると言われている。

愛着度をシビックプライドであると定義せずに、「愛着度

何%を目指す」で良いのではないか。

市民満足度調査でシビックプライドを測る指標がこれしかないとのことだが、定義に関する研究が進んでいることを踏まえると、愛着度をシビックプライドと定義することについては御一考いただきたい。

また、市民協働について言及している割には、協働に関する指標がないため、御検討いただきたい。

(事務局)

シビックプライドの成果指標に関しては、市民満足度調査の中に、新たにシビックプライドに関する設問を設けていくことを検討している。

現在、愛着度を入れているのは、類似の項目を現状値として入れるためである。

協働に関する指標については、施策(参画・協働)の成果指標として設定することを検討している。

(委員)

シビックプライドは、市民満足度調査に基づくとのことだが、どのような年齢層を調査対象としているのか。

また、小学校等では、子どもたちが自分の学校について誇れることや、学校をよりよくするための取組を考えている。

子どもたちの満足度や意見も尊重しながら、子どもたちが高松市に愛着を持ち、将来も高松市で暮らし続けてもらえるような取組を推進してもらいたい。

(事務局)

現在の満足度調査は、無作為に抽出した満18歳以上の市民2,500人に対し、調査票を送付している。

また、小中学生等、学校教育の一環として、シビックプライド醸成のための取組も始まっているため、事業効果を測るための指標を検討してまいりたい。

(委員)

「世界都市」について、個々が思い描く「世界都市」は、それぞれあるかもしれないが、高松市が目指す「世界都市」は具体的にどのようなイメージなのか。

(事務局)

子育ての分野等、何らかの分野で日本一になり、更に、世界でも認められるような都市、それが市民の誇りにもつながっていく「世界に誇れる都市」など、個々が思い描く「世界都市」で良いと考えている。

(委員)

パブリックコメントを見ても、何をもって「世界都市」と言っているのか、大上段に振りかぶりすぎではないかという意見も見られる。

おそらく「世界から注目される都市」を目指していくのだと捉えているが、実は、高松市は既に、市民が思っている以上に世界から注目されている。

瀬戸内国際芸術祭の開催時には、多くの外国人観光客が来ており、また、公表していないが、丸亀町でも、毎週30名ほどが韓国から視察に来ている。

高松市は、既にブランド化・世界都市になっており、それはデータが証明しており、過去には考えられないことが起こっている。

海外からたくさんの方が来て戸惑うばかりで、すごいことであることに多くの市民が気付いていない。

世界からすでに注目されていることを市民に啓発する意味でも、私はこの目指すべき都市像が良いと思う。

(委員)

いろんな意味で世界水準の都市を目指すことは、とてもよく分かった。

しかし、外国の人々が来るからといって、それで市民の生活や暮らしやすさが向上するわけではない。

足元をしっかりと見つめて、世界水準を目指していくことが大事なので、市民にも分かりやすい、訴えかけられやすい表現がプラスされればよいのではないか。

(委員)

既に「世界都市」になっているから、それに対応できるような「世界標準都市」にしていくということでも良いのではないか。

(委員)

観光客が増えることで、経済効果もあるが、今後、高齢化が進んでいく中、観光だけではなく、もっと幅広い視野でまちづくりを考えるべきであり、それが次世代の人に対する我々の責任だと思う。

人生100年時代を迎える中、新しい社会に生きる人たちのために、香川県らしい教育の在り方も考えていく必要がある。

子どもが一人前になるまで、20年はかかるので、子育てに必要な費用についてももしっかり考えるべきである。

各分野で担当課が様々な事業に取り組んでいるが、それぞれ、新たな視点で見直しを行っていくことも重要である。

(委員)

人口減少に伴う社会的なダメージとして、最も大きいのは税収の減少であるが、一方で都市は拡散している。

個人的には、農業や漁業、ものづくりが大事な地域産業だと思っているが、それらを活性化するために必要な財源が、もう既になくなりつつある。

総合計画で、全ての取組を網羅するとしても、その中でプ

ライオリティを付ける必要がある。

そのような意味で、人口減少社会における新たな産業として、観光等で外貨を獲得して税収を増やし、ものづくり等を支援するという明確な姿勢を示さないと、市民も納得しないのではないか。

その辺りを行政として、しっかり説明していただきたい。

(会長)

様々な御意見をいただき、感謝申しあげる。

人口減少社会の中で、高松市で若い人たちが幸せに暮らせるために、我々に何ができるのかを議論し、高松市を未来にも残るようにしていかなければならない。

税収が減った時には不要な取組は廃止する、プライオリティを検討するということは、既に始まっていると思うし、そのような総合計画にしていかなければならない。

総合計画は、網羅的であるだけでなく、計画の推進によって、将来世代が幸せになれるようにしていかなければならない。

(閉会)